

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503692		
法人名	有限会社マネジメントコンサルタント		
事業所名	グループホーム エンゼルホーム北野		
所在地	北海道札幌市清田区北野4条4丁目25-10		
自己評価作成日	令和5年1月19日	評価結果市町村受理日	令和5年7月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170503692-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和5年6月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームはとても緑多く春から秋は、畑で作物を育てて収穫します。
ご家族様からも、ゆったりし緑が良いですね、と言われます。
運営理念の、その人らしい笑顔溢れる自由、安らぎの感じられる暮らしを、この緑溢れる
場所と感じられる様、日々支援しております。ゆっくりとした時間の流れの中で、
穏やかに互いを思いやる暮らしを大切にしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は最寄りのバス停から徒歩圏内にあり、周辺は商業施設、食事処、医療機関、教会、コンビニ等が建ち並ぶ住宅街の一角に位置している。清田区の3大シンボルの一つである一級河川が付近を流れているなど、自然環境に恵まれている。コロナ禍により地域交流もお互いに自粛下にあるが、隣近所の厚意で利用者と散歩中に花畑に招いて頂いたり、衛生用品や食材が届けられ、また、裏手にある教会の音楽祭は、参加できない利用者の為に窓を開放して演奏曲を流して頂くなど、地域とは良好な関係にある。家族とは最近まで窓越し面会だったが、3月からは居室内での面会になり、また、定期的な介護記録や写真掲載の事業所便り、都度の電話で利用者の様子を届け好評を得ている。今後、コロナ禍収束を見据え、地域や家族との交流、外出行事を企画し、利用者の五感刺激への取り組みを検討している。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に繋がるよう努めている。	理念の中でもその人らしさを尊重し、人生を共に歩むことを重視した支援に取り組んでいる。理念を掲示することで職員の意識付けを図り、ケアの原点に立ち戻れる機会としている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦の環境という事もあり交流の機会が減っておりますが地域の音楽イベントに声を掛けて頂いている。	地域交流が自粛の中でも、町内会や中学校の資源物回収の協力や介護相談には快く対応している。裏手にある教会の音楽祭では、事業所に演奏が届くように窓を開放している。散歩時に住民の招きで庭を見せて頂き、また、衛生用品や食材が届けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在では実施出来てない状況である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度会議をしている。コロナ渦という事もあり電話での報告し、話しあっている。	会議は書面と対面で開催し、利用者や職員状況、レクなどの活動内容、誕生会等の行事、身体拘束廃止への研修、感染症関連等を議事録に載せている。包括職員から子供食堂の開催に向けた助言や利用者からは支援に対しての要望があり、速やかに応じている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区の担当者、地域包括担当者とは必要であれば連絡を取る。	代表者が事業所の案件に対して、各部署の担当者との関わりを持ち、得た情報や助言をスムーズな運営に生かしている。保健所からは感染症関連に対する対応法やコロナウイルス抗原キット等の物資が届いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い代表と職員全員が、身体拘束禁止という事を理解している。夜間帯の玄関施錠は、防犯上行っている。	職員は、身体拘束や虐待をしないケアを基本姿勢として利用者に寄り添っている。職員は、都度の適正化委員会や研修会等で指針や禁止の対象となる11項目、グレーゾーン等の理解に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しては、常に意識を持ち接している。スピーチロックに関しては常に意識を持ち職員で互いに注意出来る関係にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は少ない。情報を取り入れる場面も少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時利用者様、ご家族様と十分納得できる話し合いを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・要望をくみ取り意見箱を設置して聞き入れ向上に取り組む。	家族には定期的に、介護記録と日常や行事の様子を写真に納めた「エンゼル通信」を届けている。利用車の外出希望には、近所の花畑を眺めながらの散歩を、家族の屋内での面会要望には、条件付きで3月から居室で実施している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	状況に応じて意見を出し合い、向上心を持ち取り組んでいる。	代表者は常日頃から事業所を訪れ職員の状況確認も行っており、管理者と共に働きやすい環境整備に努めている。職員は、居室担当や業務を分担しながら自己研鑽に励み、習得した知識や技術を利用者への支援に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	柔軟に取り組める環境を作り、無理のない勤務条件にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の向上の為、ZOOM講習や研修の参加等を積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部との会社訪問等をさせて頂き交流を行い、参考にさせて頂いたりサービスの向上に生かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の求めている事、不安な事を話しの中で、理解し安心できる生活に取り組む。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が求める事を聞き入れ信頼できる関係作りに心がける。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	往診・訪問歯科、訪問理美容の希望も取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならない様に体調、行動を把握し、安心して生活できる様努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の様子を伝え、情報の共有に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話やはがき等のやり取り、外出等も含め家族とも協力しながら支援している。	感染症状況に応じた面会や電話、葉書の取り次ぎ、家族支援で選挙の投票、馴染みの医療機関への外来受診を家族と協力して行っている。懐かしい土地などは、ユーチューブを使った回想法等で利用者の大事な思い出を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩や日光浴、レクリエーション、行事の参加等で、共有できる場を提供し関わりあえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何か不安な事、気になった事等は、連絡を頂き相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の希望、気持ち等を把握しその人らしい生活が送るよう努める。	利用者の意向は日々交わす言葉や目の輝きなどの表情、介護記録、家族からの情報等を加味して汲み取っている。利用者が満足感を得られるよう職員間で話し合いが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様にお話を伺っている。本人からも会話の中から把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカンファレンスを行っている。介護日誌、申し送り簿等で現状の把握にも努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様、本人、職員に確認を取り介護計画を作成し、カンファレンスで話し合う事もある。	事前に得ていた利用者や家族の意向に沿ったケアプランの策定に努めている。職員全員でモニタリングやアセスメントを行い、職員の多様な意見を踏まえた支援目標の下、実践に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等、細かく介護記録に残し、状態変化などある際も介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況により対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状は出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に、1度の往診を実施。他の病院への受診、送迎等も、行っている。	かかりつけ医は、利用者や家族の希望を取り入れているが、現在は、全員が2週間ごとに協力医による訪問診療を受けている。週2回、看護職員による健康状態の確認がある。他科受診は、家族と協力して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員、看護師共に日々の関わりで話しを共有し行う事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーと連絡を取り、情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時には、事業所方針を明確にし、担当医等、看護師と連携を図り、職員、家族と共有している。	重度化や看取りに対する対応は、指針に沿って説明をして理解を得ている。状態悪化時は、家族の意思確認後に医療従事者など関係者と情報を共有し、最期までその人らしい人生であるように尊厳ある支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置などのマニュアル化を行い、カンファレンス時に事故報告、ヒヤリハットの報告を行い社内研修等にて話し合いを行う。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を職員、入居者にも参加してもらっている。土砂災害に関しても職員とカンファレンス等で対応について話しをしている。	夜間帯を想定した地震や火災時の避難訓練を実施している。土砂災害警戒地域でもあるので、常に職員間で対応を検討している。今後、緊急連絡網に地域住民の登録を予定している。	感染症状況を見極め、地域との協力体制の強化、あらゆる自然災害やケア場面での対応、避難場所への経路確認等を行い、安心・安全に避難できる取り組みに期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	安全な暮らしと尊厳を、大切にしたい日々が守れる様、声掛け対応に努めている。	伝達時は固有名詞を出さず、ケア場面でも入浴や排泄時は十分に羞恥心に配慮するなど、利用者への接し方は意識して行っているが、さらに研修で学びを深め実践に努めている。管理者は都度声かけをして注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思い、希望が表現出来やすい環境作りを話し合える場、時間が持てる様、努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の思い、希望に出来るだけ添えられ快適に過ごせる様、努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に希望に添える様、支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好み、刻み食等にも対応し出来る限り対応できる様、心がけている。準備、片付けもできる方は行って頂いている。	食事は朝食以外は業者を利用しているが、利用者の嗜好に合わせて味付けをしている。行事食で赤飯を出したり誕生日は要望の醤油ラーメンを作るなど、適宜食事に変化を付けている。おやつも楽しみの一つであり、今後は外食も視野に入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に水分量を記入し職員が全員把握できるようにしている。状況によっては、メニューを変更し好みのものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き、口腔ケアを行って頂いている。訪問歯科の利用もある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、トイレへの声掛けも行っている。チェック表にも記入している。	排泄状況は利用者自身や2人介助でトイレへ、ポータブルトイレを使用、ベッド上での支援など様々だが、出来る限りトイレでの排泄を基本としている。衛生用品の必要時は家族に相談をしているが、なるべく布下着の着用に向け検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操への参加、便通の良くなる飲み物を提供。主治医から便秘薬の処方をして頂く。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望に添うように声掛けをしている。汚染がある場合、さりげなく声掛けし入浴して頂く事もある。	入浴は利用者の状況に応じ、同性介助の要望を受けとめ、1人入浴の見守りや足湯にシャワー浴などを行い、出来ない部分を支援している。入浴時は身体状態の確認や歌や本音が聴ける場面でもあり、情報は職員の共有としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境を整え、安心して休んで頂ける様、心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員で個々の服薬をしている。薬の把握、理解に努めている。申し送りでも把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの能力に合わせて声掛けを行っている。嗜好品に関しては現状出来ない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や日光浴、その日に合わせて声掛けや支援を行っている。	近所の花畑を眺めながらの散歩やコンビニで買い物、家族と選挙に、受診後に桜を觀賞するなど外気に触れ気分転換を図っている。感染症状況を確認しつつ、外出行事を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望や力に合わせてお金を所持したり使えるように支援している。人によっては、ホーム側で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも、手紙、電話をする事が出来る様、支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員、入居者が共有部分において不快な思いをしない様に努め、居心地の良い生活空間を目指した工夫をしている。季節ごとの装飾等の演出もある。	利用者が寛いで過ごせるよう生活環境に配慮した共用空間になっている。レクでの作品である紫陽花の塗り絵など季節飾りを掲示し、室内でも四季の移り変わりが感じられるなど、メリハリある生活になるよう努めてる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで気の合う同士がお話をしたりくつろいだり、又は居室で休まれたり、思い思いに過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に慣れ親しんだ物の利用をお願いしている。清潔感を心掛け、気持ちよく過ごして頂ける様、努めている。	約6畳ある居室には、ベッドやタンス、テレビ、仏壇、裁縫セットなどが持ち込まれている。画用紙でのレク作品や母の日に職員から贈られたメッセージカード等がほのぼのとした雰囲気を漂わせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所に応じて、目印等を付け、出来る限り、自立した生活が送れる様、工夫、支援をしている。		